

地区防災計画学会第1回大会：各地の事例から①
(第3回国連防災世界会議・パブリックフォーラム)
2015.3.14,15:20～@東京エレクトロンホール宮城

地区防災計画の一事例

「安渡町内会津波防災計画づくり検討会」 の取り組み

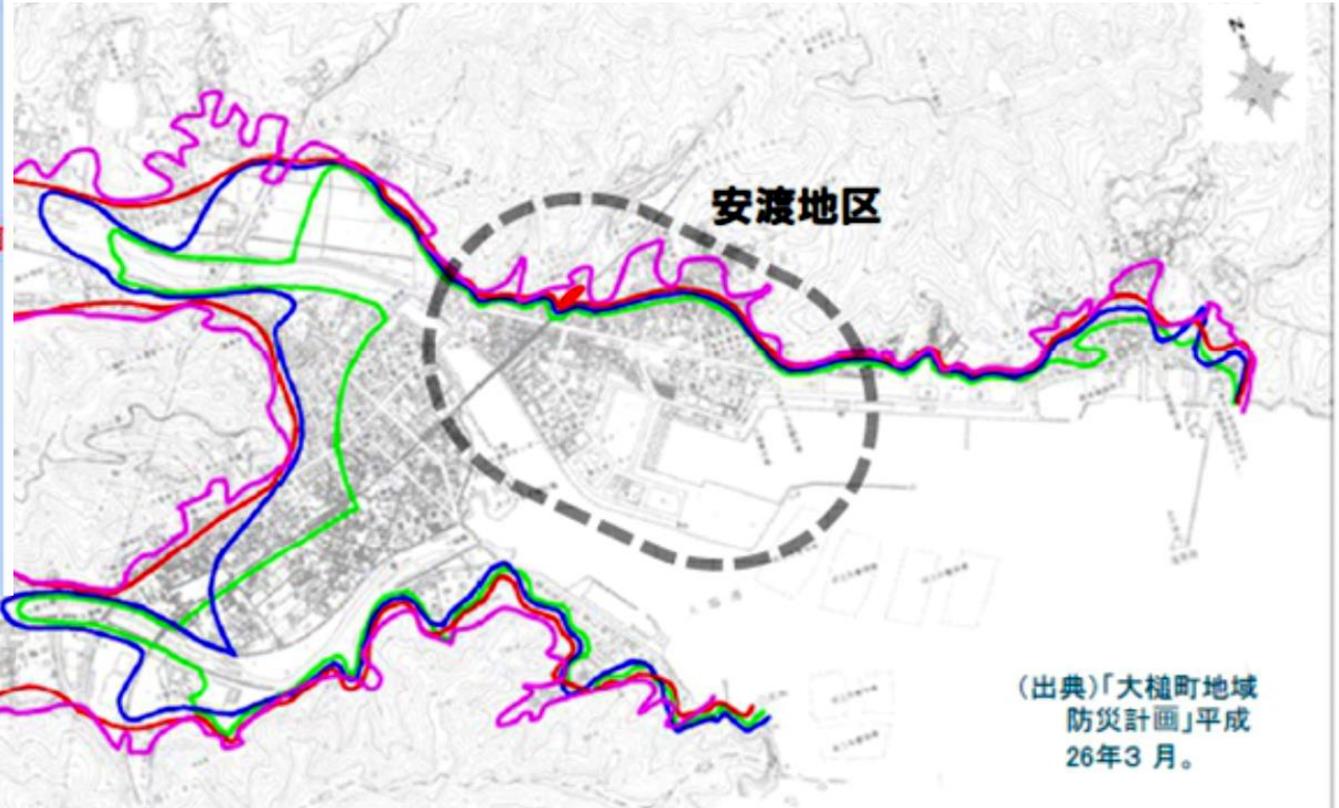
「地区防災計画」策定の体制と調査

専修大学人間科学部

教授 **大矢根 淳**

(災害社会学・地域社会学・社会調査論)

大槌町安渡の被害



(出典)「大槌町地域
防災計画」平成
26年3月。

「ここまで来れば・・・」と「ここまでは
来ない」

→ 過去の浸水区域という「想定」

明治29年三陸大津波浸水区域



昭和8年三陸大津波浸水区域



昭和35年チリ地震津波浸水区域



平成23年東日本大震災津波浸水区域



大槌町安渡の被害



佐々木慶一さん(現・安渡町内会長)提供写真

大槌町安渡の被害

表 大槌町における人的被害と建物被害

	大槌町全体	安渡地区
死者・行方不明者 (2010年国勢調査の人口に対する割合)	1,258人 (8.2%)	218人 (11.2%)
倒壊家屋数 (2010年国勢調査の世帯数に対する割合)	3,717棟 (65.3%)	535棟 (64.9%)

出典：大槌町全体：岩手県資料（2013年1月時点）。

安渡地区：第2回安渡町内会防災計画づくり検討会（2012年7月29日）での安渡町内会佐藤稲満会長の配布資料を一部修正。

野坂真,2013,「大槌町安渡(1)ー過疎・高齢化する津波被災地の地域生活の再生とはー」,
浦野正樹他著『津波被災地の500日ー大槌・石巻・釜石にみる暮らし復興への困難な歩み』,
早稲田大学出版部

安渡の防災活動

安渡2丁目町内会・自主防災事業部(2005)

・佐藤稲満(前・町内会長)さんの記憶と信念

「高台に避難(行動)するだけじゃダメ + 避難所(生活)」

～1933(昭8)・母の記憶と言い伝え(乳児の死亡)～

・避難訓練4回/年

(with 消防団+消防署+警察+保育所+役場)

安渡の防災活動

平成22年11月：福祉課と**要支援者マップ**作成
2丁目17班でワークショップ

平成23年度：17班への説明開始(予定)
直前に津波

- ・「一番先に避難してきたのは**保育所**、訓練通り！」
- ・「いつも訓練に参加している**98歳の婆ちゃん**。
昭和8年の津波を知っている婆ちゃんが、
ステッキカート押して一番早く避難した。
自分の娘夫婦は亡くなってるんだから…」

調査で分かってきたこと **消防団災害**

...かつてない大きな地震を経験した我々第二分団員は、津波襲来を直感し地震が収まらないうちに、自宅や職場からそれぞれ水門扉門の閉鎖に急行しました。

15時04分管轄地区内の水門扉門の閉鎖を完了し、その後、避難誘導等、次の任務に散って行きました。

停電で屯所のサイレンが吹鳴出来なくなり半鐘を乱打していた団員、防潮堤上から海側の逃げ遅れ者の確認誘導をしていた団員、屯所に参集途上だった団員、屯所付近で避難誘導をしていた団員、寝たきり者の救助活動をしていた団員が、15時20分過ぎに防潮堤を越流した大津波に呑みこまれ、11名の仲間が帰らぬ人となってしまいました。

11名の仲間達には、逃げてもらいたかった、生きて又一緒に活動したかったと強く思いますが、**我々消防団員は災害現場で逃げない人や逃げられない人が居れば、自らも逃げられないのです。そんなジレンマと闘いながら全国の消防団員は災害から国民を守っているのです。** (小国峰男,2012)

消防団災害

水門しめたら 海面監視



屯所待機



高台移動

(≠高台避難)



調査で分かってきたこと **消防団災害**

大津波警報→避難誘導

ではなく、実際は....、

大津波警報→**搜索**→**説得**→**梱包**→**搬送**→**被災**

こすばる老人

この家の中、誰がいるか？

私、逃げない！ もう諦めている！

位牌、薬、めがね、ラジオ...

負ぶって...

大きな揺れを感じたら(大津波警報が出たら)玄関先まででてきておいて欲しい

体制と調査と成果 大槌町安渡

- 2011.10 避難行動等のヒヤリング
- 2012.04 安渡町内会誕生(1～3丁目の合併)
- 2012.06 安渡地区防災計画づくり検討会の設置
- 2012.09 生存者への避難行動等アンケート
- 2013.01 安渡地区死亡状況調査
- 2013.04 安渡町内会津波防災計画(案)、報告
- 2013.08 安渡町内会・大槌町懇談会
- 2013.10 安渡地区津波防災計画、策定
- 2014.03 ①安渡町内会・大槌町合同防災訓練／検証会議
大槌町地域防災計画(資料編に掲載)
大槌町東日本大震災検証報告書
- 2014.09 生きた証プロジェクト
- 2015.03 ②安渡町内会・大槌町合同防災訓練／検証会議
国連防災世界会議・報告

大槌町安渡の取り組み

安渡町内会防災計画づくり検討会の活動経緯（2012-13年度）

年月		安渡町内会防災計画 づくり検討会	大槌町	備 考
2011	3		・踏査	
	6	・踏査	・踏査・ヒア	
	8	・踏査	・踏査・ヒア	
	10	・踏査・ヒア	・ヒア、打合	
	10		・創造懇談会	
	11	・ヒア	・復興協、打合	
	11	・ヒア	・創造懇、復興協	
2012	3			・盛岡ヒア等
	3	・ヒア、打合	・報告	
	4	・ヒア、打合	・報告	
	6	・1 検討会、ヒア、打合	・報告	
	7	・2 検討会、ヒア、打合	・報告	
	8	・仮設調査、ヒア、打合	・報告	
	9	・3 検討会、ヒア、打合	・報告	
	10	・4 検討会、ヒア、打合	・報告	
	11	・5 検討会、ヒア、打合	・報告	

2013	1	・ 6 検討会、ヒア、打合	・ 報告	
	2	・ 7 検討会、ヒア、打合	・ 報告	
	3	・ 8 検討会、ヒア、打合	・ 報告	・ 1 吉里吉里
	4	・ 打合	・ 町長報告会、打合	
	5	・ 9 検討会、ヒア、打合	・ 報告	・ 2 吉里吉里
	7	・ 打合	・ 打合	・ 盛岡打合
	8	・ 10 検討会、1 懇談会、住民懇	・ 1 検証委、1 懇談会、ヒア、打合	・ 3 吉里吉里
	8			・ 盛岡打合
	9	・ 報告	・ 2 検証委、打合	
	9	・ 11 検討会、2 懇談会、訓練、打合	・ 2 懇談会、ヒア、打合	・ 4 吉里吉里
	10	・ ヒア、打合	・ ヒア、打合	
	10	・ 報告	・ 3 検証委、打合	
	11	・ 12 検討会、3 懇談会、打合	・ 検証委（中間）、3 懇談会、打合	・ 5 吉里吉里
	12	・ 13 検討会、ヒア、打合	・ 復興協、ヒア、打合	
2014	1	・ 報告	・ ヒア、打合	
	2	・ 14 検討会、4 懇談会、打合	・ 4 懇談会、打合	・ 盛岡打合
	2	・ 15 検討会、打合	・ 4 検証委、打合	
	3	・ 合同防災訓練、16 検討会、打合	・ 合同防災訓練、打合	
	3	・ 報告	・ 検証委（最終）、打合せ	

(注) 踏査＝現地踏査、ヒア＝ヒアリング調査、打合＝業務等の打合せ、創造懇＝復興まちづくり創造懇談会、復興協＝地域復興協議会、検討会＝安渡地区防災計画づくり検討会、懇談会＝安渡町内会・大槌町懇談会、住民懇＝安渡住民懇談会、検証委＝大槌町東日本大震災検証委員会、訓練＝防災訓練、吉里吉里＝吉里吉里地区自主防災計画検討会、盛岡打合＝岩手大学、岩手県

大槌町安渡の取り組み

通常の防災計画

← 被害想定に基づく

安渡の防災計画

← 実被害に基づく

記憶・後悔の記録化・教訓化
定石から一歩踏み込んで！

大槌町安渡の取り組み



大槌町安渡の取り組み(検討会)



大槌町安渡の取り組み(検討会)



大槌町安渡の取り組み(検討会)



大槌町安渡の取り組み(検討会)



2012.09 生存者への避難行動等アンケート の知見

- ◇地区住民の多くは、早く避難を開始していた
 - ← 居場所が危険であることを認知していた
- ◇しかし、避難場所への到着が遅れた
 - ← 過去の経験から「想定外」による油断
- ◇避難開始が遅れた理由
 - 「道路渋滞」 「家族の安否確認」
 - 「要援護者の家族」「低地への再入場」
 - 「要援護者支援」

生存者対象アンケートの限界＝犠牲者死亡状況調査の必要性！

2012.09 生存者への避難行動等アンケート の知見

- ◇自動車による避難のあり方について要検討
 - ・おんぶ／車椅子／リヤカー／軽トラ...
- ◇避難場所で「低地への再入場」抑止ルール
- ◇要援護者支援のルールを！

- ・要援護者の事前登録
- ・無線機の携帯
- ・支援時間・支援内容の限定



2012.09 生存者への避難行動等アンケート の知見

自助・共助のあり方の試案

- ・ 率先避難／声かけの啓発(同伴避難)
- ・ 家族・事業所等、諸集団レベルの避難計画
- ・ 防災教育(特に、自助の啓発)
- ・ 語り部／教訓記録・伝承
- ・ 要援護者サイドのできる限りの自助を基本

2014.03.02 合同防災訓練

安渡町内会・大槌町
合同防災訓練

検 証 会 議

～東日本大震災の教訓を次世代に継承する～

2014年3月2日

安渡町内会防災計画づくり検討会

2014.03.02 合同防災訓練



2014.03.02 合同防災訓練

「こすばる」老人

→消防団災害



- 実際は誘導ではなく
- 搜索・説得・梱包・搬送

大槌町安渡の取り組み(懇談会)

懇談会:2013.8.1~

安渡町内会「7つの要望」の懇談の場



大槌町安渡の取り組み(懇談会)

懇談会：2013.8.1～ 安渡町内会「7つの要望」の懇談の場

- ①コミュニティ施設(防災機能充実)
- ②車避難・災害時要援護者支援のための避難場所・避難路整備
- ③町内会・町役場の情報連絡体制
- ④災害時要援護者支援対策
- ⑤避難所開設運営における町内会の権限
- ⑥医療救護・保健衛生面の支援
- ⑦町内会の防災教育・啓発活動への支援

生きた証プロジェクト



生きた証プロジェクト

〒100-0001 東京都千代田区千代田

東日本大震災で犠牲となった方の、
ご家族・関係者の皆様へ。

様

大塚町「生きた証プロジェクト」へ

調査へのご協力をお願いします。

東日本大震災からおよそ3年がたちますが、大震災で犠牲となった方のご家族や関係者のみなさまにおかれましては、それでおなじしい日々を乗り越えてこられましたこと、特にお慶び申し上げます。

さて大塚町では、大震災で犠牲となった1284名の町民の方からのご家族の方へ、永く記憶に残すための取り組みとして「生きた証プロジェクト」を実施することになりました。

ご家族や関係者のみなさまにおかれましては、故人のことについて、それぞれのご感想をお書きと送付いたしますが、即大震災で亡くなった方のご家族へ、御そのことを詳しく聞かずに逝かれた方が、改めてそのことをご家族さまに改めてお話しをさせていただくこと、どうかこの調査へのご協力をお願いします。

おたずねする内容は、故人の生前の様子、人物、家族生活、ご活動、お故人の被災時の状況（関連死の方は、被災後のご様子）などで、約1時間から1時間半くらいお時間を要します。うかがった際に、故人の写真を思い出の品などについて、一時的にお貸しいたたくか、写真を撮影させていただけたらありがたいと思います。

うかがった内容は、生きた証プロジェクトの調査記録として、プロジェクトの運営に当たった方々でのみ活用します。被災から5年の区切りには、記録書として刊行する予定です。

大塚町大塚町長

大塚町生きた証プロジェクト実行委員 若千大学学長
プロジェクト推進委員会委員長 若千大学学長
プロジェクト支援地区責任者 防災都市計画研究所
プロジェクト推進地区責任者 東京大学防災センター

鎌田 肇、
横 浩樹、
森本 晋、
吉川 忠貴、
栗田 重夫、

■連絡先

①大塚町役場内「生きた証プロジェクト」室。

〒020-1192 岩手県上閉伊郡大塚町上町1番8号

②若千大学教育学部社会科学研究室。

〒021-8550 岩手県盛岡市上田5-18-93 電話：011-821-3645/090-8719-5858

E-mail: msg@kuraki.ac.jp

■調査票表

I. 基本情報

➤ 故人及びお書きいただいた方の性別。

(1) 故人のこと。

(1-1) 氏名、性別。

(1-2) 生年月日：明・大・昭・平 年（西暦 年）月 日 土。

(1-3) 没年月日：平成 年（西暦 年）月 日 日 土。

(1-4) 年齢（享年）。

(1-5) 被災時の住所（関連死の場合、逝去後の住所）。

(1-6) ご遺体の発見の場所：発見 or 行方不明。

(1-7) 死因、推定の死因。

(2) お書きいただいた方のこと。

(2-1) 氏名、性別、年齢。

(2-2) 故人との関係（関係）。

(2-3) 現住所、被災時に同居の有無、電話番号。

II. 死亡状況

➤ 東日本大震災時に亡くなった時の状況。

(1) 地震発生から津波襲来まで、どこで何をしていましたか？（※地震発生時、津波襲来時、津波退去後）。

III. 人となり

➤ 故人の人生、人となり等。

(1) 故人はどのような人生を送られましたか？

○ 故人の略歴（仕事、就労、家族、居住等の主なできごとを中心に）。

(2) 故人はどのような人でしたか？

(2-1) 個性、らしさ。

(2-2) お人柄を物語るエピソード。

(2-3) 趣味やこだわり。

I. 基本情報
II. 死亡状況
III. 人となり

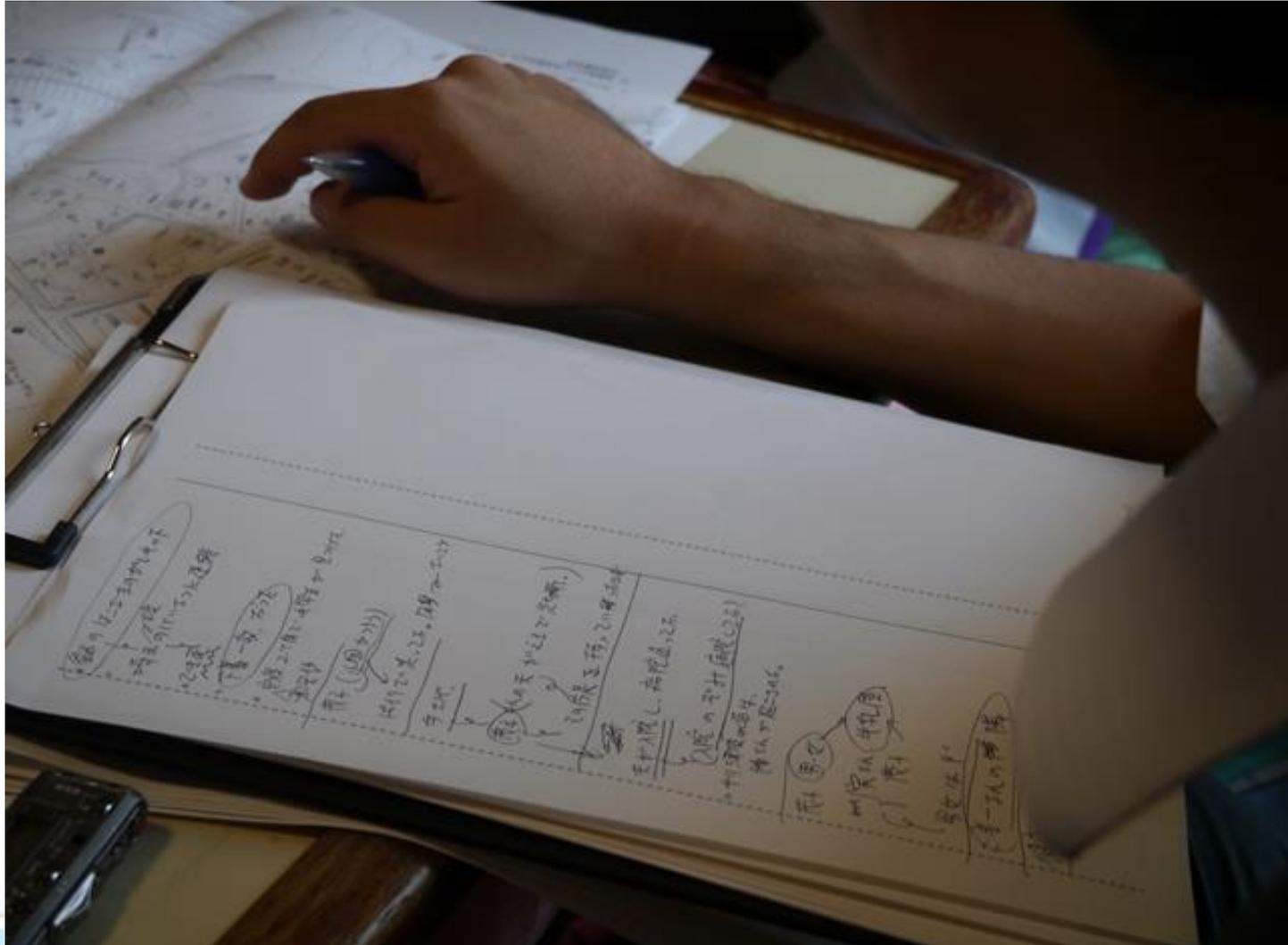
生きた証プロジェクト



生きた証プロジェクト



生きた証プロジェクト



参考文献等

- ◇『第17回安渡町内会防災計画づくり検討会』(会場配布資料：2014.6.19)。
- ◇「安渡地区津波防災計画～東日本大震災の教訓を次世代に継承する(2013年10月版)」
『大槌町地域防災計画(資料編,pp.75-88)』。
- ◇『大槌町東日本大震災検証報告書』(2014年3月)。
- ◇小国峰男,2012,「東日本大震災大津波を体験して」『東日本大震災における貢献者表彰』
日本財団。
- ◇吉川忠寛,2013,「大槌町安渡(2)－津波被災地における防災計画づくりの教訓」
浦野正樹他著『津波被災地の500日』早稲田大学出版会。
- ◇吉川忠寛,2014,「東日本大震災の津波避難の教訓と要援護者支援対策」
(都築区災害時要援護者支援事業「つづきそなえ」活動発表会・説明資料)。
- ◇野坂 真,2014,「大槌町安渡(1)－過疎・高齢化する津波被災地の地域生活の再生とは－」,
浦野正樹他著『津波被災地の500日』,早稲田大学出版部
- ◇大矢根淳,2014,津浪(波)避災の諸相～被災地での踏査・聞き書きの研究実践から～
『専修大学社会科学研究所月報』(No.618+619合併号)
- ◇「大槌の人・声・思い～安渡町内会長・大槌町役場代表監査委員・佐藤稲満74歳～」
『大槌チャンネル』